疥癬並ニ其療法ニ就テ

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2017-10-04 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/2297/30666

疥癬並ニ其療法ニ就テ

郡立江沼病院　七五三龜吉

疥癬 Scabies ハ其ノ部位ト著明ナル瘙痒トニヨリ往古ヨリ人ノ知ル所ノモノニシテ濕毒、しつ、ひぜん、かゆがり、Krätze 等ノ異名ヲ有ス。其ノ明ニ記載サレシハ第十二世紀ノ中頃サンクテー、センデガルチスノ理科書ナリト云フ。當時附スルニ Suren (Siuren,) Syrones Cirons ナル名稱ヲ以テセリ。然シナガラ腐敗液ノ刺衝ヲ原因トセシ古說ニ反對シ疥癬蟲ヲ以テ唯一ノ原因ナリト論ゼシハ西曆一千七百八十九年ウイッヒマン氏ノ疥癬病理ナリトス。

氏ノ論文ハ精細ニシテ之ニ添フルニ附圖ヲ以テセシモ當時未ダ學界ハ普ク之ヲ是認スルニ足ラズ、第十九世紀ノ初メモ尙ホ巴里ニ於テハ疥癬蟲ノ發見ヲ奬勵セシ位ナリキ。西曆一千八百三十四年コルシカノ一學生ベヌッチーハ示スニ疥癬蟲ノ實物ヲ以テセリ。而モ一方疥癬蟲捕獲法ハ俗間治療ノ目的ヲ以テ練習セラレ、中古ノ老婆ハ第十九世紀ノ學醫ヨリモ熟練セリト云フ。蓋シ疥癬蟲ノ本性ニ關スル研究ハヘブラ氏ニ負フ所多シ。

疥癬蟲 Acarus scabiei, Sarcoptes hominis, Krätzmilbe. ハ動物學上、節足蟲中ノ壁蝨類ニ屬スル小動物ニシテ疥癬族 Acaridae ノ一種ナリ。疥癬族ハ人體ノ皮膚表面ニ寄生スルモノト皮膚ノ內部ニ寄生スルモノトニ區別シ得ルモノニシテ此ノ疥癬蟲ハ其ノ後者ニ屬スルモノナリ。但シ疥癬蟲ハ皮膚外ニ於テハ二三日間生存シ得ルニ過ギザルモ空氣ヲ遮斷セル液體中ニ於テハ更ニ永ク生存スルノ性質アリ。卵子孵化シテ子蟲ニ至ル時日ハ四日乃至七日ニシテ子蟲ノ成熟スルニハ大約十四日ヲ要ス。

其ノ性狀、症候等ハ成書ニ詳ナルヲ以テ此處ニ論ズルノ要ナシ。然レドモ人體ニ寄生シテ疥癬墜道ヲ形成スルヤ之ニ伴フ解剖上他ノ炎症性皮膚病トノ差ハ勿論ナルモ通常小丘疹、小水疱或ハ小膿疱ヲ形成シ其ノ經過ニヨリ濕疹、膿

痂疹等ヲ發現ス。余ハ二十八歳ノ男子ニ於テ陰毛部ニ現行壹錢銅貨大ノ圓形ノ潰瘍ヲ形成セルヲ實驗セリ。恰モ小兒ニ見ル壞疽性深膿疱ニ類似ス。ボュツク氏諾威疥癬 Scabies norvegica Boeckii ノ如キ陳舊重症ノモノハ其例甚ダ少ク我國ニ於テハ井尻氏ノ三例アルノミ。余ハ通常ノ疥癬ニ對シテハ其乾性タルト濕性タルトヲ問ハズ疥癬性膿痂疹ナル名稱ヲ慣用シ來レリ。

疥癬ハ人ヨリ人ニ稀ニハ家畜ヨリ人ニ觸接傳染シ四五週ノ後、其ノ好發部位、指間、四肢特ニ關節ノ屈面、腋窩、緊帶部、臀部、陰部、大腿ノ內側等ノ何レニカ發疹ヲ生ズルモ亦タ職業及ビ男女ニヨリテ多少發生部位ヲ異ニス。要スルニ皮膚ノ硬軟ヲ問ハズ、勉メテ互ニ接觸セル皮膚若シクハ衣服ニヨリテ常ニ防護セラルル皮膚面ニ好ンデ發生スルモノノ如シ。從テ人種風俗ニ於テモ多少其ノ部位ヲ異ニス。

流行ニ就テハ家族間ノ傳染ハ古來人ノ知ル所ナルモ吾人ハ又地理的、氣候的關係ヲ等閑ニスベカラザルヲ覺ユ。余ハ大正八年度ニ於テ我病院ヲ訪問セル疥癬患者ノ例年ニ比シテ著シク多數ナリシヲ氣附キ、此處ニ大正三年度ヨリ六年間ノ統計ヲ試ミタリ。大正二年度ヨリ以前ハ余ノ赴任前ニ在リ統計ノ資料トナスベク經過錄ノ餘リニ簡短容易ナリシヲ以テ殘念ナガラ之ヲ捨テタリ。

第一表　年度別（大正八年度ハ十二月二日迄ヲ限リトス）

	男	女	計
大正三年	6	1	7
同　四年	5	3	8
同　五年	9		9
同　六年	5		5
同　七年	6	1	7
同　八年	16	8	24
計	47	13	60

此ノ表ニ於テハ著シク男子ニ多キモ直ニ一般ヲ律スベカラザルヤ明ナリ。然シナガラ大正八年度ハ例年ニ比シテ流行ノ著シカリシハ男女共ニ其數ノ多キヲ見テモ察スルニ足ル。

第二表　年齢別

	男	女	計
一年ヨリ五年マデ	1	2	3
六年ヨリ十年マデ	1		1
十一年ヨリ二十年マデ	10	3	13
二十一年ヨリ三十年マデ	18	4	22
三十一年ヨリ四十年マデ	15	2	17
四十一年ヨリ五十年マデ	2	2	4
五十一年以上			
計	47	13	60

表中五十一年以上中男女一人モ無キハ注目スベキコトニシテ三十年前後ニ最モ多キハ事實ナリ。余ノ統計ニ於テ最低年者ハ女子二歳、男子五歳ニシテ一年未滿ノモノナシ。又タ最高年者ハ女子四十八歳、男子四十三歳ニシテ五十歳ニ達シテ疥癬ニ罹リタル患者一人モ發見スルコト能ハズ。

第三表　季節別

	男	女	計
一月	4	1	5
二月	3	2	5
三月	5		5
四月	2		2
五月	4		4
六月	7	2	9
七月	1		1
八月	6	1	7
九月	6	1	7
十月	4	5	9
十一月	4		4
十二月	1	1	2
計	47	13	60

疥癬ノ夏季ニ於テ多キハ事實ニシテ發汗セル人體、疥癬蟲ノ性狀等ヲ參照セバ自ラ首肯シ得ベキコトヽ信ズ。尙ホ觸接傳染上職業別ヲ擧ゲルコトノ最モ必要ナルニ經過錄ノ疎漏ナリシ爲メ此處ニ表示シ得ザルハ甚ダ殘念ナリ。

第四表　地方別（元ヨリ一地方ノコトノミ御參考マデニ掲グ）

		男	女	計
大聖寺附近	大聖寺	17	4	21
	福田	2		2
	熊坂	1		1
山代山中間	山代	5	3	8
	山中	3		3
	上原	1		1
	塚田	1		1
	四九十院	1	1	2
片山津附近	片山津	2	1	3
	小管波		1	1
能美動橋間	動橋	2		2
	中島	1		1
	月津	1		1
	矢田野	5	1	6
	箱宮	1		1
	二ッ梨	1		1
	瀧ヶ原	1		1
海岸	鹽谷	1	1	2
	橋立	1		1
	小鹽		1	1
計		47	13	60
男20 女4				
男11 女4				
男2 女2				
男12 女1				
男2 女2				

原著　七五三ⅱ疥癬並ニ其療法ニ就テ

當地方ニ於テハ溫泉場多ク從テ私娼夥多シク獨身者ハ之ニ集リ一方疥癬患者溫泉療法ヲ試ム等感染ノ機會ヲ作ルコトノ多カルベキニ反テ溫泉場住人ニ疥癬少ク寧ロ溫泉場ヲ隔ツル町村ニ多キハ意外ナリ。恐ラクハ溫泉浴ニヨリテ治療スルモノニハアラザルカ、又溫泉場ヲ遠隔セル村落ニ著シク少キヲ見レバ、ヨリ多ク溫泉場ニ出入スル附近ノ村落ニ向テ溫泉場ハ傳染流行ノ機會ヲ與フルモノナランカ。

療法

疥癬ノ療法ハ疥癬蟲ヲ撲滅スルト同時ニ續發症ヲ治癒セシムルニ在リ。此ノ目的ニ向テ從來種々ノ藥品ヲ使用セラル。硫黄、篆兒、「ナフトール」、蘇合香、及ビ百露拔爾撒謨等ハ往時ヨリ軟膏若シクハ溶液トシテ塗布セラレタルモノナリ。又「ペルスカビン」、「ペルオール」、「エピカリン」、「ヒノソール」等ヲ塗布ス。處方トシテハカポシー氏ノ複方「ナフトール」軟膏、土肥氏篆兒軟膏、山田氏硫黄華糊、ウィルキンソン氏軟膏、ワインベルグ氏改良ウィルキンソン氏軟膏、「サン、ルイ」病院硫黄軟膏、一〇%「ナフトール」軟膏、或ハ三三%加里石鹼ヲ加ヘ或ハ過脂肪石鹼ニ蘇合香ヲ混ジ或ハ蘇合香ト阿列布油、又ハ百露拔爾撒謨ト酒精等分、一〇—三〇%「デシンフェクトール」（東氏）、五—一〇%「ナフトール」精、等種々アリ。余ハカポシー氏軟骨ト百露拔爾撒謨等分ノモノヲ使用セリ。

藥浴法トシテハ「デシンフェクトール」二百倍浴（松浦氏）、民間湯ノ花（硫黄華）浴、昇汞浴（局處）、溫泉療法等稱用セラル。

軟膏塗擦法ニ曰ク大抵廿四時間中ニ二回乃至三回施行シ纏衣ヲ交換セシメズ廿四時間後、衣、衾蓐ヲ交換セシメ一週間內ハ澱粉ヲ撒布シ一週後溫浴ヲ取ラシム。爾後每週同樣ニ一二回反復ス。曰ク塗擦ハ每日一回反復シ三、四日ヲ經テ始メテ入浴シ充分ニ軟膏ヲ洗ヒ去ラシメ、多少疥癬ノ殘存セバ其部位ノミ同一軟膏ヲ塗擦シ又ハ水劑ノ類ヲ塗布スルモ可ナリ。疥癬ノ治後刺戟症狀ニ對シテハ二%石炭酸亞鉛華糊膏ヲ一日數回塗布セシム。

以上諸種ノ療法ハ其ノ何レモ奏効確實ナルハ醫界ノ認ムル所ニシテ吾人モ亦每次實驗スル所ノモノナリ。他ノ難治ナル疾病ニ比シテ患者ノ福音其ノ幾千ナルヲ知ラズ。然レドモ吾人ノ屢〻患者ヨリ訴ヘラルル愚痴ハ曰ク長時日入浴

シ得ザルハ甚ダ苦痛ナリ。曰ク軟膏ノ不快ナル衣類ノ汚ルルニハ閉口ナリ。曰ク忙ガシキ身ノ業務ニ從事シ得ザルノミカ此ノ汚キ恰好ニテハ人ノ前ニモ出ラレズ。

余ハ學生當時動植物ノ實驗若シクハ標本ヲ作ルニ際シ動物特ニ昆蟲、節足動物ノ如キ小動物ガ嗜囉仿謨（クロ・フォルム）Chloroformium ニ對シテ甚ダ弱ク直チニ斃死スルコトヲ知レリ。九年前愛猫ノ疥癬ニ罹リタルヨリ端無クモ此ノ事ヲ思出シ且ツ嗜囉仿謨ハ頗ル著大ノ防腐及ビ殺菌作用ヲ有スルモノタルヲ以テ之ヲ試ミ治癒セシメ得タリ。爾來幾度カ犬猫ニ寄生セル壁蝨類、「ロイデ」、毛囊蟲、蝨ノ類ニ嗜囉仿謨ヲ塗布セシニ容易ニ此等寄生蟲ヲ斃シ、脫毛ヲ防ギ營養ヲ回復セシメ得タリ。依テ之ヲ人體疥癬ニ應用シ毛筆ヲ以テ勉メテ墜道ノ首端ニ塗布セリ淺キ粘膜層ニシテ僅カニ一乃至二密米ノ蟲道ハ容易ニ嗜囉仿謨ヲ滲透シ殺蟲實ニ確實ナリ。サレバ一蟲道ハ一回ノ塗布ニテ足ル、然シナガラ余ハ其部ノ刺戟症狀ヲ去リ乾燥ヲ望ムベク嗜囉仿謨塗布後ハ等分ノ亞澱散滑石ヲ撒布セシメタリ。但シ濕疹性變化若シクハ膿痂疹ヲ生ゼルモノハ其療法ヲ主トシ之ニ兼ヌルニ余ノ療法ヲ以テセリ。然レドモ此處ニ注意スベキハ嘗テ余ハ四十歳ノ男子ニシテ疥癬ニ罹リタルモノニ余ノ療法ヲ試ミ患者ニ嗜囉仿謨ヲ與ヘシニ患者ハ疥癬ノ治後偶〻左項部髮際部ニ生ジタル癤腫ニ塗布セリ。然ルニ疼痛頗ニ甚シクナリ癤腫其ノモノノ腫脹ハ減ジタルモ日ナラズシテ同側項部全部ノ硬結腫脹疼痛ヲ來シ、サテハ咽頭喉頭ニ腫脹疼痛波及シ體温四十度內外、脈搏頻數症狀頗ル險惡トナリ次デ敗血症ニ陷リ發病後五日ニシテ死亡セル一患者ヲ實驗セリ。ソハ嗜囉仿謨塗布ノ爲メナリシヤ否ヤハ判明セザルモ癤、癰若シクハ急性化膿性疾病ニ對シテ嗜囉仿謨ノ塗布ハ慫慂セザルコトナリ。ヨシ疥癬ノミトスルモ全身廣キ部分ニ一時ニ嗜囉仿謨ヲ塗布シ或ハ患者ニ投與スルガ如キモ危險ナリ宜シク入院ヲ命ジ醫師ノ監督ノ下ニ塗布スルカ否ズンバ深キ注意ヲ示シテ少量宛患者ニ投與セザルベカラズ。余ノ療法ハ頗ル簡單ニシテ其ノ奏効確實ナリ。而モ患者ヨリ療法上ノ愚痴ヲ聞クガ如キコトナキハ理想的ノモノト信ズ。

余ハ以上ノ研究ヲ綜合シテ次ノ結論ニ達ス。

一、人類ハ總テ疥癬ニ感染スルノ性ヲ具ヘ決シテ不感受性若シクハ素因等ヲ固有スルコトナシト云フモ吾人ノ實驗ニ依レバ男女共ニ五十歳以上ノ高齢者ハ感受性ナシト見テ可ナリ、又最モ多ク感染シ易キ年齢ハ三十歳前後ナリトス。

二、疥癬ハ四季共ニ感染スルモノナルモ夏季及ビ其前後ニ於テ最モ多ク、ソハ疥癬蟲ノ性狀、季温及ビ人體ノ濕度等ヲ考フレバ首肯シ得。

三、男女及ビ土地ノ關係ハ判斷シ得ザルモ風俗、家族、個人ノ性行ニヨルハ明カナリ。

四、疥癬ノ療法ハ多樣ナルモ僅カニ甲乙アルノミ何レモ奏効確實ナリ。然レドモ稍〻繁雜ナルト患者ニ嫌惡ノ念ヲ起サシムルハ其ノ缺點ナリ。余ノ療法ハ此等ノ缺點ヲ一掃シ奏効一層確實ニシテ著シク經過ヲ短縮セシム。

引用書目ハ主トシテ增訂六版土肥博士著、皮膚科學及ビ Edomund Lesser : Lehrbuch der Haut und Geschlechtskrankheiten. 等ニヨリ皮膚科及ビ泌尿器科雜誌其他ヲ參照セリ。